

1 実践の目的

総合的な学習の時間と音楽を連携させたカリキュラムの見直しを行い、地域の魅力を曲にして発信することで、生徒の地域を愛する心の育成を図ることを目的とした。前期に行った音楽の実践で、音声合成ソフトを活用して曲づくりをする際、どこまで指導や制限（どの調を用いるのか等）の必要があるのかの検証を行った。後期では、総合的な学習の時間と音楽を連携させ、職場訪問での学びを、地域の魅力を曲にして発信する。それにより、生徒の地域を愛する心にどのような変化があったのかを、アンケート結果から見取り、その有効性と課題について検証を行った。

2 実践の方法

（１）曲づくりの試行実践

燕中学校の３学年を対象に、音声合成ソフトを活用して旋律の創作活動を行う際、どこまで指導や制限の必要があるについて検証する。

（２）地域のニーズの把握

地域からの要望も少ないことから、地域が学校や生徒たちに何を求めているのかについての調査を行う。

（３）対象生徒の地域への愛着の実態調査

「地域への愛着」尺度（＊）」の中から抜粋したアンケートを行い、各項目の変容の見取りと、分散分析によって効果を検証する。

（４）音楽と総合的な学習の時間での実践

燕中学校の３学年を対象に、総合的な学習の時間と音楽を連携させた、カリキュラムの開発を行う。（表１）

表１ 総合的な学習の時間と音楽での実践時期と内容

時期	総合的な学習の時間の取組	音楽の時間の取組
9月	地域の産業調べと、地域に関する意識調査	
10月	オンライン職場体験の事前学習 オンライン職場体験 オンライン職場体験のまとめと礼状書き	
11月	職場訪問 キャッチフレーズ作成 身近な商店街の現状と取組についての講話	鑑賞「CMソングの特徴を考える」 音声合成ソフトで音階の構造を理解する 言葉の抑揚とリズムを考える
12月	職場訪問のまとめ（スライドの作成）	CMソングの作成
1月		
2月	学年での鑑賞会	

3 実践の実際

（１）前期の実践

地域の魅力を伝える曲作りをするためには、長調や短調のように安定した音楽である調性音楽（本研究

では旋法も調性音楽に位置づける)を創れる力が必要になる。そのために、前期では音声合成ソフト「synthesizerV」を活用した、創作活動の試行実践を行い、3年生を対象に行った。この授業研究では、音階についての指導(制限を加える)を行ったクラスと、行わなかった(制限を加えない)クラスで、出来上がった旋律にどのような違いが出るのかを検証した。指導を行ったクラスの約半数の生徒は、音楽の規則に沿った旋律を創ることができた。しかし、指導を行わなかったクラスでは、専門的な教育を受けている以外の生徒は、非調性的な旋律になってしまった。この実践から、これまでの指導内容だけでは、音階を意識した旋律を創ることが困難であることが判明した。そのため、後期の実践では、創作活動に先立って、synthesizerVで音を確認しながら、音階(CMソングで使用する予定である長音階と5音音階)を理解させる指導を行うことにした。

(2) 後期の実践

商工会議所に関わっている方からの聞き取り調査により、地域としても学校と連携があまりとられていないことを課題に感じていることが明らかとなった。さらに、地域や企業の思いとしては、学校と連携、協力したい気持ちがあることが確認できた。

総合的な学習の時間では、2年生202名(男子108名、女子94名)を対象に、Googleフォームのアンケート機能を使って「地域への愛着尺度」によるアンケートを行った。その結果「地域のために活動することは自分の楽しみである」と「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目に対する肯定的な回答が、他の回答の数値よりも低いことが明らかとなった。

職場訪問は、燕市の主要産業である、金属加工業と卸売業の4社で行い、総合的な学習の時間で、企業(商品)の魅力、印象に残ったこと、伝えたいこと、キーワードとしてまとめさせ、ミライシードのオクリンクを活用して考えを共有しながら、キャッチフレーズとしてまとめた。

音楽の時間では、CMソングの特徴を理解するために、テレビで流れているCMソングの楽曲分析を行った。比較鑑賞により、使用している「音階」や「リズム」、言葉の「反復」などにより、聴き手の印象に残るような工夫がみられることを確認した。

旋律の創作活動では、言葉の抑揚を考える活動では、言葉に出しながら、音の高さを手の上下で表現しながら、抑揚について考えさせた。5音音階か長音階かを選択した後、音声合成ソフト「synthesizerV」を活用し、言葉の抑揚をもとにしてリズムを考えながら旋律の創作を行った(図1)。



図1 生徒Aが作った旋律

4 結果と考察

職場訪問のまとめの時間に、「地域へ愛着」尺度をもとにしたアンケート調査を再度行い、分散分析を行ったところ、有意差を認めることができなかった。しかし、各項目の平均値では、全ての因子で上昇が見られた。1回目のアンケートで、特に低かった地域に対して主体的に関わるに項目に対する肯定的な回答も、わずかであるが上昇が見られた。今回の実践で有意差を認められなかったことは、短期的な取り組みであったことが考えられる。地域を愛する心の育成には、活動がイベント的に終わらせるのではなく、長期的で系統的な取り組みにしていく必要があると考える。そのため、総合的な学習の時間の3年間を貫くテーマとして「地域学習」を設定し、3年間の学びを通して、地域を愛する心が育成できるようなカリキュラムを、今年度中に作成する予定である。